# 2016年度　健康保険組合全国大会

# 改革の早期実現！
# 次世代へ安心・納得の確保を！

基調演説を行う
健保連・大塚陸毅会長

約3,500人の健保組合関係者が
全国から集結

## 実効ある医療費適正化対策の確実な実施

増大する医療費の重点化・効率化を行わない限り、持続安定性は確保できない。「経済・財政再生計画」に基づく改革工程表で提示された検討項目にとどまらず、さらなる適正化施策を早急に検討し、確実に実施すべきである。

## 現役世代が納得できる介護保険制度の実現

現役世代が納得できる介護保険制度にするためには、保険料負担を軽減することが必要。また、介護納付金の総報酬割導入については、国庫補助の肩代わりとして現役世代の保険料負担をさらに高めるものであり、断固として反対する。

## 皆保険の堅持に向けた健保組合の維持・発展

優れた保険者機能を発揮し、皆保険制度を支えてきた健康保険組合を将来に亘って維持し、発展させるためには、安定した財政、事業運営が不可欠である。改革の早期実現に加え、制度面での負担増に対する財政支援の拡充を実施すべきである。

## 高齢者医療費の負担構造改革の早期実現

国民皆保険制度の維持には、高齢者医療費を支える現役世代の負担軽減が不可欠。高齢者にも応分の負担を求め、公費拡充を図るなど、現役世代に過重な負担となっている現行の負担構造の改革を早期に実行すべきである。

**去る2016年11月29日、2016年度健康保険組合全国大会が開催されました。**

**当日は、会場となった東京国際フォーラムに全国から約3,500人が参加。国民皆保険制度を維持するため、現役世代の過重な負担を解消することをめざし、上記にご紹介する4本のスローガンを決議し、早急な制度改革の実現をアピールしました。**

大会のはじめに基調演説を行った健康保険組合連合会（健保連）の大塚陸毅会長は、「消費税引き上げの再延期で、高齢者医療費への公費投入の拡大は先送りとなる見込み」であることや、「健保組合運営の最大の課題は高齢者医療への拠出金負担であり、2017年度からの後期高齢者支援金の全面総報酬割で急激な負担増が危惧される」ことを指摘。国庫補助の肩代わりとして現役世代の保険料負担をさらに増やすものとして、「断固反対」との立場を表明しました。

一方で、「こうした厳しい状況だからこそ、われわれが保険者としての真価を発揮することが求められている」として、「健保組合が保険者機能をさらに充実させ、事業者と連携を深めて、健康経営の取り組みをリードしていくことが必要」と呼びかけました。

最後に国に対して、「世界に誇る国民皆保険制度を次世代につなげていくために、その支え手である現役世代が、納得できる公平な制度であることが重要。この課題を先送りすることなく、英断をもって将来世代の安心につながる施策を断行していただくことを切に期待する」と強く訴えました。

大会は4つのスローガン（別掲）を決議として満場の拍手で採択し、馬場成志・厚生労働大臣政務官に手渡しました。

### 要請活動

大会終了後に要請団を結成し、関係各方面に対して全国の健康保険組合の主張が反映されるよう、要請活動を展開しました。

自民党・二階幹事長に要請書を手渡す大塚会長

## 事業主・被保険者のみなさまへ

日立健保では、引き続き、効果的・効率的な事業運営に取り組むとともに、加入者のみなさまの健康保持・増進のお役に立つ施策を展開してまいります。

みなさまにおかれましては、日立健保が実施する保健事業を積極的にご活用いただき、疾病予防・健康管理に取り組んでいただきますようお願い申し上げます。